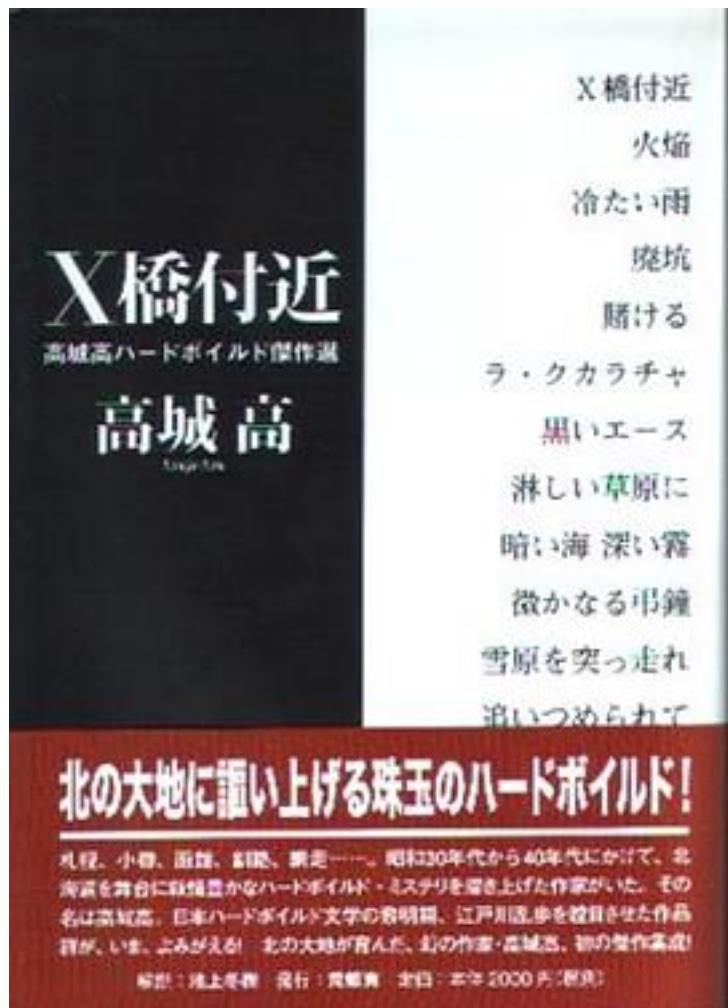


X橋付近



[X橋付近 下载链接1](#)

著者:高城高

出版者:荒蝦夷

出版时间:2006年12月

装帧:单行本

isbn:

高城高の名前を初めて知ったのは、高校時代か大学時代の始めの頃と思う。立風書房

から出ていた「現代の推理小説」（全四巻）に氏の代表作の一つである「淋しい草原に」が収録されていたからである。その題名も独特のものであったが、作者の名前も一度聞くと忘れられないものであった。高城高（こうじょうこう）という名前は漢字表記では回文となっているし、読み方としては普通「たかぎたかし」と読むだろう。

作者による単行本の存在を知ったのは、もう少し時間が経ってからである。ある時古書店で『微かなる弔鐘』（光文社）を購入して、そのことを友人に言ったところ、もう一冊単行本が出ていることを知ったのであった。『微かなる弔鐘』という題名も良いが、もう一冊の本の題名である『墓標なき墓場』（光風社）も鮮やかに印象を残すものである。当時はほとんど毎日のように古書店へ顔を出していたので、その成果であろうか『墓標なき墓場』も間もなく入手することができたのであった。

しかし世の中の移り变わりは激しく、昭和三十年代に出版された推理小説の単行本もめったに古書店でお目にからなくなってきて、高城高の著書も古書店では見ることはできなくなった。昭和三十年代の推理小説のうち一部の本については、古書価が大きく跳ね上がったりするような状況になってしまって、学生当時均一本棚でよく見かけた本が二桁値段が上がっているのを見て、信じられない思いをしたのであった。

ところが、今度は海外黄金時代の作家の再評価とリバイバルがブームとなって、海外古典の未訳作品が翻訳されて毎月のように新刊書店の棚を賑わすようになつた。それに触発されたのか、昭和三十年代以前に活躍した日本人作家の作品集が編まれるようになってきた。

機が熟したと言えば言い過ぎかもしれないが、このような時に高城高の作品集が新たに出版されたのは、当然と言えば当然かもしれない。しかし、まさか新刊で高城高の作品が読めるようになるとは正直思わなかつたのは事実である。筆者と同世代の人はそんな思いを抱いたはずだ。

さて、新たに出た作品集の題名は『X橋付近』という。これは収録されている同題の短編に由来する。表題作は推理小説専門誌「宝石」の懸賞募集で一席を取つた作品である。本書には『微かなる弔鐘』に収録されていた作品六編はすべて収録されている他、全部で十六編が収められている。

本書を一読された方は、今まで読んだミステリとは異なつた印象を持たれたのではないかと思う。これをハードボイルドと呼ぶかどうかは別として、明らかに文体は文学を意識したものである。初期の二編が「文藝首都」に掲載されたものであることも、これを裏付けている。今回単行本初収録作品の中では、「雪原を突っ走れ」と「父と子」は秀逸の一言。これらが読めるようになつただけでも非常に価値がある一冊と言えるだろう。

=====

■ 収録作品 16 篇（内、単行本未収録作品 10 篇）

X 橋付近

火焔

冷たい雨

廃坑

賭ける

ラ・クカラチャ

黒いエース

淋しい草原に

暗い海 深い霧

微かなる弔鐘

雪原を突っ走れ

追いつめられて

凍った太陽

父と子

星の岬

死ぬ時は硬い笑いを

作者介绍:

高城高（コウジョウコウ）

1935年北海道函館市生まれ。東北大文学部在学中の1955年、日本ハードボイルドの嚆矢とされる『宝石』懸賞入選作「X橋付近」でデビュー。大学卒業後は北海道新聞社に勤めながら執筆を続けたが、やがて沈黙。2006年『X橋付近 高城高ハードボイルド傑作選』で復活を遂げた。他の著書に『微かなる弔鐘』。08年、『墓標なき墓場』を第1巻とする〈高城高全集〉全4巻（創元推理文庫）が刊行された。

目录:

[X橋付近 下载链接1](#)

标签

冷硬

日语

冷硬推理

评论

[X橋付近 下载链接1](#)

书评

[X橋付近 下载链接1](#)